



いづら祭

第33回松原いづら祭が7月25日(土)に開催されました。午後4時、カウントダウン花火を合図に祭りがスタートし、会場は多くの来場者でにぎわいました。スイカと花火の無料配布、キッズダンスやフラダンスなど、子どもから大人まで楽しめる催しが行われ、笑顔があふれる一日となりました。また、物価高騰の影響が続く中、各出店者は工夫を凝らし、焼き鳥やチュロス、射的、スーパードールすくいなどを手頃な価格で提供し、多くの来場者に喜ばれました。地域の交流を深める、思い出に残る夏祭りとなりました。

(編集委員)



松原かわら版

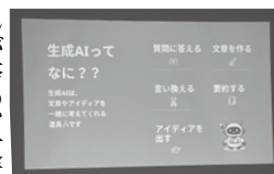
世帯数 1,291 戸
人口 2,890 人
高齢化率(65歳以上) 31.0%
(令和8年8月1日現在)

▲今年も中学生が夏祭りを盛り上げてくれました!

▼元気いっぱいキッズダンス、ゆったり癒されるフラダンス!今年も会場を盛り上げていただきました!



生成AI活用体験会



7月11日、松原地区福祉ひろばで「やさしい生成AI活用体験会」が行われました。講師は表・川崎英里さんが務め、文章作成や言い換え、要約など、生成AIの基本的な使い方を分かりやすく教えていただきました。

文章やアイデア作りを手伝ってくれる便利な道具です。今回は、ChatGPT(愛称「チャットピー」)を使い、「町会の清掃活動のお知らせ」を作成してみました。日時や場所、対象者などを伝えるだけで、高齢の方にも読みやすい文章を短時間で作ることができ、その便利さを実感しました。

デジタル笹賀は、生成AIやパソコン・スマートフォンなどのデジタル技術を学び、地域活動に生かすことを目的として活動している団体です。地域の皆さんが気軽にデジタルに親しみ、学び合える場づくりを進めています。

町会活動でも、回覧板やお知らせ文、イベント案内、会議資料の作成など、さまざまな場面で活用できる可能性を感じた体験会でした。今後も、このような学びを地域活動に生かしていきたいと思っています。

参加者は実際にホースを持って放水を体験し、火災発生時の初期消火の重要性を改めて認識しました。また、訓練を通じて地域住民同士の連携を深め、防災意識を高める貴重な機会となりました。

町内清掃

7月5日(日)梅雨前線停滞、台風接近の影響で大雨の心配もありましたが朝から快晴となり1回目の町内清掃が無事行われました。

参加者より「疲れたけど綺麗になった達成感がうれしい」とのお声も頂きました。すがすがしい朝のひとときとなりました。

ご参加いただいた皆さま、ご協力いただいた関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。今後も安心・安全なまちづくりのため、さまざまな防災活動に取り組んでまいります。

主に生け垣刈り込み作業、草取り、道路歩道割れ目の草の除去、排水溝周囲の砂利、汚泥、落ち葉の除去を参加者のご尽力によりトラブル



放水訓練



7月5日(日)、地域の防災力向上を目的として、町会主催の放水訓練を松本市消防団第16分団のご協力のもと、実施しました。当日は多くの



町会員の皆さまにご参加いただき、消火栓や消防ホースの取り扱い方法、放水の手順などを学びました。

災害はいつ発生するかわかりません。万が一の事態に備え、日頃から防災への関心を持ち、地域全体で助け合える体制づくりを進めていくことが大切です。

（編集委員）

8/4 夏休み子どもバス研修



▲戸隠チビッ子忍者村へ行ってきました！

まつばらのできごと



▲地域の方からいただいた野菜がたくさん入ったカレーライスを美味しくいただきました！

8/12 まつばら子ども食堂



▲地域の方からいただいた野菜がたくさん入ったカレーライスを美味しくいただきました！

子どもが外で遊ばなくなった今こそ、生身のライブ感は貴重です。さあゲームをセーブして、目指すは本物のワールドカップ。いつかあのピッチへ——そんな微笑ましい勘違いから始まる夢の原点として、スポーツ少年団にはまだ粘ってほしいものです。

（編集委員）

昔、泥だらけでボールを追いかけたサッカー少年団。そこはワールドカップを観て「将来の日本代表は俺」と、技術も根拠もない無敵感に満ちた少年たちの熱気で溢れていました。しかし今、グラウンドは嘘のように静かです。

それでもそのはず、今の小学生は習い事の多様化で大忙し。さらにゲームの普及により、放課後は外を走る代わりに、画面の中で「全キーパーが絶望する神シュート」を秒で連発しています。現実のピッチでシュートを外して、コーチに「どこ蹴ってんだ！」と怒られていた昭和・平成の泥臭い思い出が、令和のスマートな多様性の前でかすんでしまします。

（編集委員）



昔、泥だらけでボールを追いかけたサッカー少年団。そこは

（編集委員）